

登米地域認知症対策における
本人及び介護家族ニーズ調査の結果について
—本人の思い・家族の思いから—

東部保健福祉事務所

成人・高齢班 小川美穂

高齢者の現状（石巻地域・登米地域）

平成22年3月末現在

市町名	総人口(人)	65歳以上の人口(人)	65歳以上の割合(%)	一人暮らし高齢者数(人)	在宅高齢者のうち、一人暮らし高齢者の割合(%)	認知症高齢者推計人数
石巻市	163,594	43,901	26.8	6,709	15.3	3,806
東松島市	43,337	9,814	22.6	1,217	12.4	825
女川町	10,232	3,449	33.7	507	14.7	306
登米市	86,289	24,160	28.0	2,244	9.3	2,380
宮城県 総計	2,329,344	516,790	22.2	77,462	15.0	44,709

宮城県高齢者人口調査より

※ 出現割合は、平成4年2月老健第29号、老健14号「老人保健福祉計画策定に当たっての痴呆老人の把握方法等について」による。

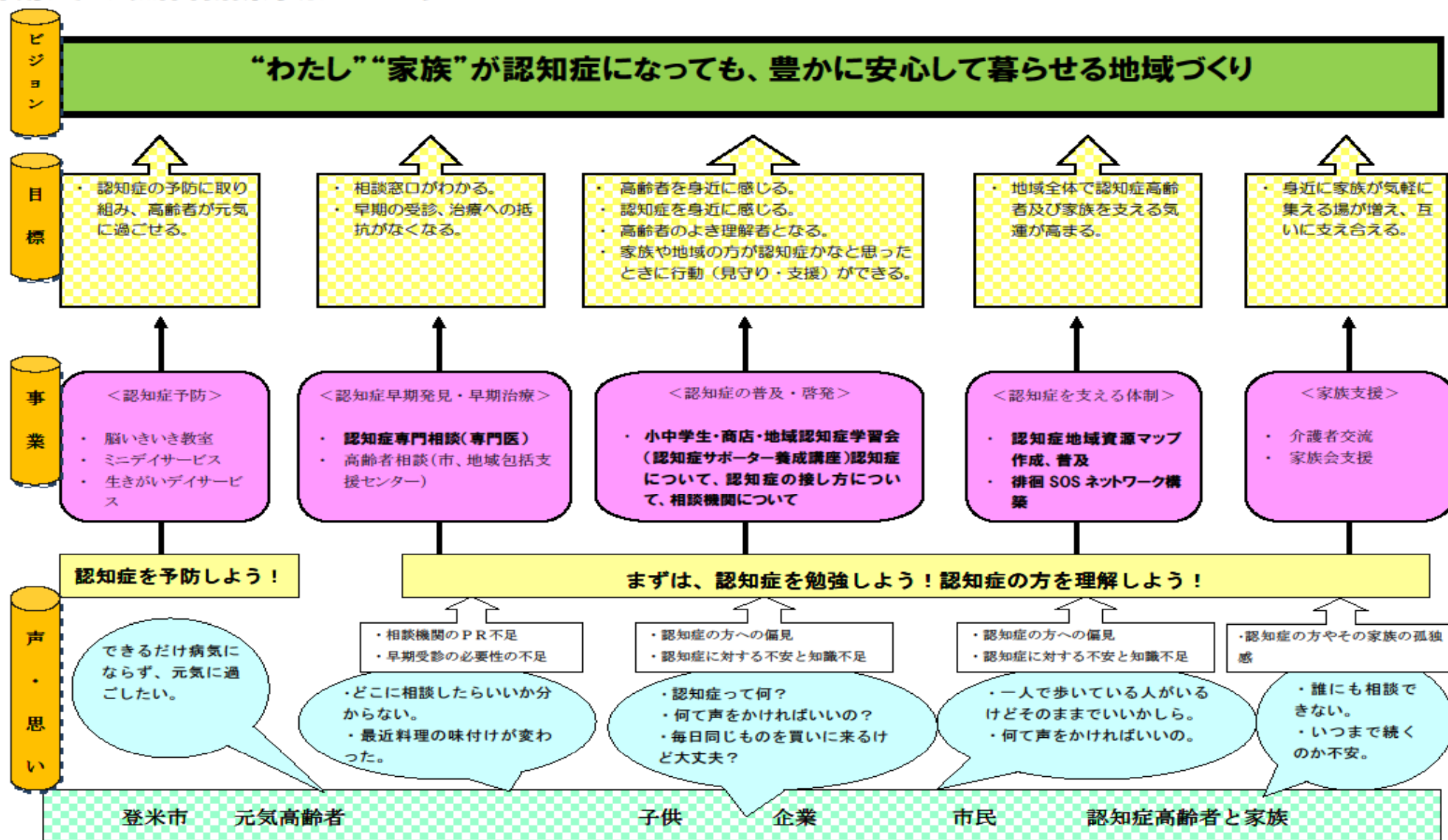
認知症地域ケア総合支援構築推進事業

主な事業

	主な事業内容
長寿社会政策課	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症地域ケア推進会議(県全体の体制づくり) ・認知症ケア推進研修会(市町村等) ・推進のための担当者会議, 情報提供 など
保健福祉事務所 (5ヶ所)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケアコーディネート推進会議(圏域の体制づくり) ・モデル市町の支援(コーディネーター派遣, 事業企画運営支援) ・認知症専門ケア研修会(専門職) ・管内への普及 など
モデル市町 (登米市 他5市町)	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケア専門サポート事業(相談会, 交流会など) ・認知症本人, 家族のための地域資源マップの作成 ・見守りネットワークの構築(行方不明時等) など

登米市認知症事業イメージ図

登米市認知症支援体制構築事業イメージ図



登米地域認知症対策における 本人及び介護家族ニーズ調査

1 調査目的

認知症という病気が持つ特徴から発生する介護上の不安や生活上の課題などを明らかにし、今後の認知症対策に役立てるため、認知症本人への聞き取りや認知症を介護しているご家族に対しアンケート調査を実施する。

2 実施主体 登米市

3 協力

- (1) 認知症地域ケアコーディネーター
- (2) 宮城県東部保健福祉事務所

登米地域認知症対策における 本人及び介護家族ニーズ調査

4 調査対象者

(1) 在宅で認知症及び認知症(疑い)の方で、通所介護事業所利用されている方 150人

* 通所介護事業者へ依頼し、スタッフによる聞き取り調査 (8項目 自由回答)

(2) 在宅で認知症及び認知症(疑い)の方で、介護保険サービスを利用されている方を介護している家族 200人

* 居宅介護支援事業者へ依頼し、介護支援専門員による配布、回収
(7項目 選択制)

5 調査期間 平成22年7月

調査結果 (本人)

6 本人調査結果

(1) 回収率

配布数	回収数	回収率
150	108	72.0%

(2) 年代別

40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代以上
0	0	3	13	75	14

(3) 性別

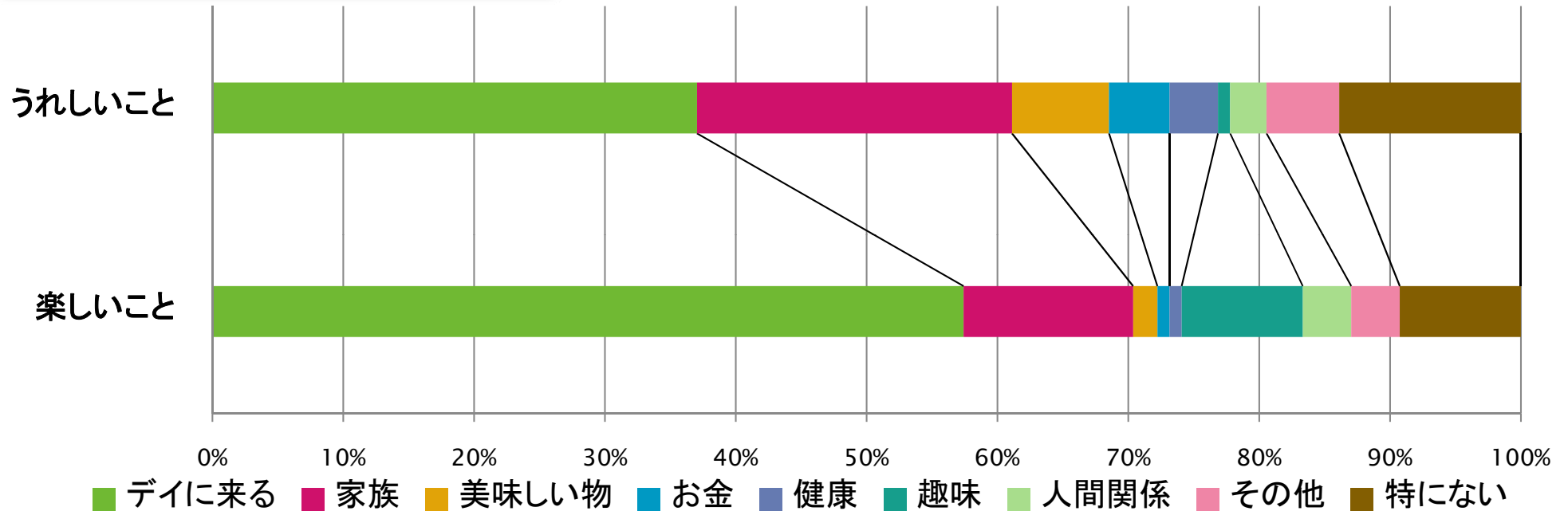
男	女
23	82

(4) 介護

要支援	要介護
4	102

調査結果 (本人)

うれしいこと・楽しいこと



○うれしいこと(その他)

- ・何かもらったとき
- ・楽しく遊ぶこと
- ・毎日がうれしい, 楽しい
- ・自分のことを聞いたとき
- ・おいとこを踊っているとき

○楽しいこと(その他)

- ・何でも楽しい
- ・いつも楽しい
- ・その時によって違うから, 直ぐには思いだせない

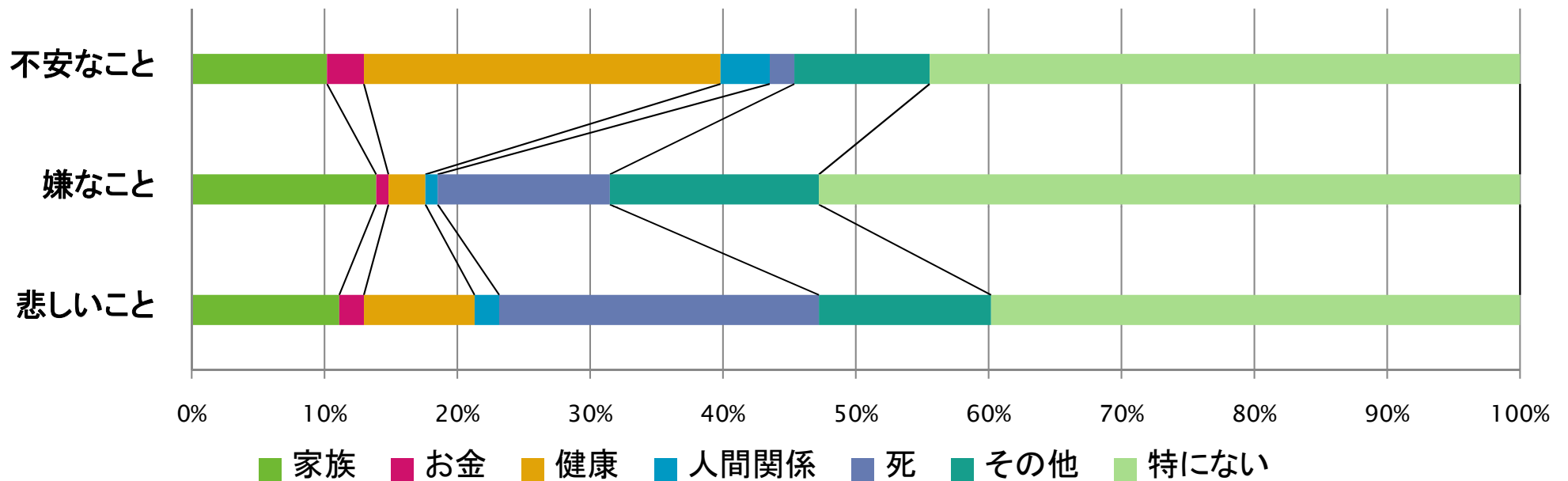
件数

	デイに来る	家族	美味しい	お金	健康	趣味	人間関係	その他	特にない	合計
うれしいこと	40	26	8	5	4	1	3	6	15	108

	デイに来る	家族	美味しい	お金	健康	趣味	人間関係	その他	特にない	合計
楽しいこと	62	14	2	1	1	10	4	4	10	108

調査結果 (本人)

不安なこと・嫌なこと・悲しいこと



○不安なこと(その他)

- ・ガスが心配
- ・家に留守番がないこと
- ・車にのること
- ・自分一人のとき
- ・一人きりの夜

○嫌なこと(その他)

- ・畑仕事
- ・年をとること
- ・自分一人のとき
- ・いろいろあるがいいたくない

○悲しいこと(その他)

- ・一人で家にいるとき
- ・さびしいとき
- ・年をとっていくこと
- ・手伝うといいからと言われる

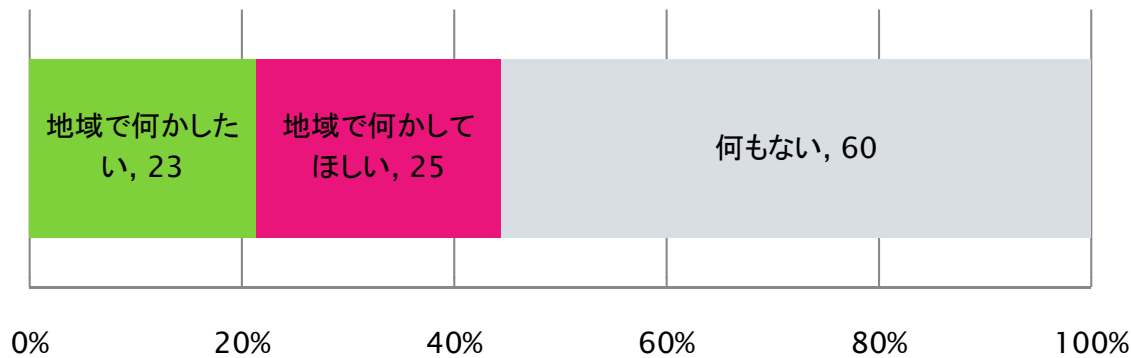
	家族	お金	健康	人間関係	死	その他	特にない	合計
不安なこと	11	3	29	4	2	11	48	108
	家族	お金	健康	趣味	人間関係	その他	特にない	合計
嫌なこと	15	1	3	1	14	17	57	108
	家族	お金	健康	人間関係	死	その他	特にない	合計
悲しいこと	12	2	9	2	26	14	43	108

件数

調査結果 (本人)

地域で何かしたい・何かしてもらいたい

N=108



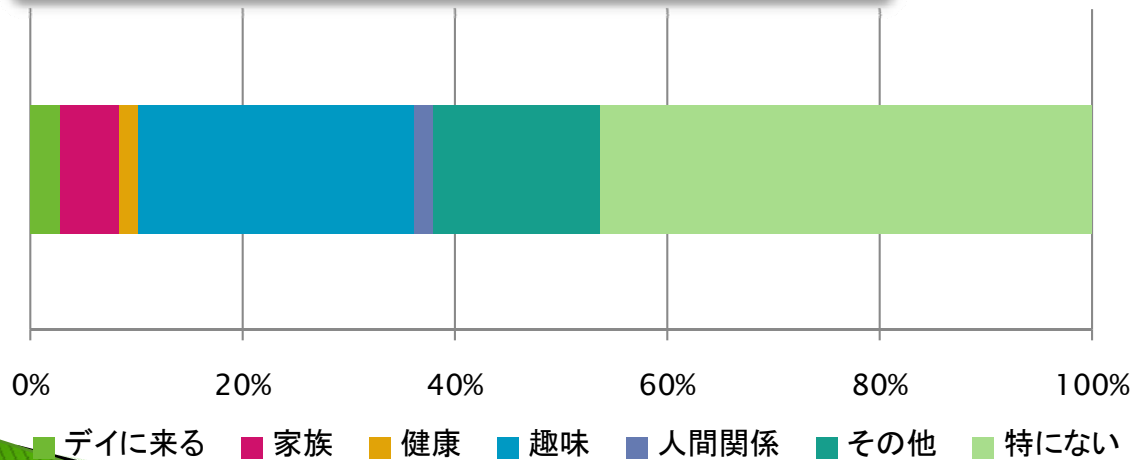
○地域で何かしたい

- ・作業 ・畑しごと ・散歩 ・お話し
- ・困っている人を助ける

○地域で何かしてほしい

- ・わからないことやできないことを
- ・手伝って ・外出の手助け
- ・声をかけて会話してほしい
- ・同年代の集まりの場 ・お茶のみ

やりたいこと



○やりたいこと

- ・趣味(山歩き, 工作, 手仕事, 旅行, 縫物, ゲートボール, 和裁, 掃除, 歌, 踊り)

○その他

- ・地域に協力したい
- ・自分の自由をやりとおす
- ・昔住んだ町にいきたい
- ・商売 ・草取り
- ・地域の発展に協力したい
- ・買い物 ・家にいたい

	デイに来る	家族	健康	趣味	人間関係	その他	特にない	合計
やりたいこと	3	6	2	28	2	17	50	108

件数

調査結果 (本人)

病院への要望について

あり	なし
38	70

- ・みなさん親切でありがたい
- ・先生は私のことを思ってくれている
- ・看護師さんや先生や分かってくれて、痛いとすぐに対応してもらえる
- ・今通っているところが一番いい
- ・待ち時間が長い
- ・遠い
- ・何か所も通っているので、一ヶ所にして欲しい
- ・注射が痛すぎる
- ・副作用が少ない薬をだして欲しい

など

本人調査まとめ

- 人と話をすること、誰かと一緒に過ごすことなど、人とふれあうことが「うれしい」「楽しい」と感じている。
- 健康(病気のこと)に関すること、家族(家族の中の自分の居場所、存在が)に関することが、「不安なこと」「いやなこと」「悲しい」と感じている。
- いつまでも、地域で何かをしたい、何らかの役に立ち続けたいと感じている。

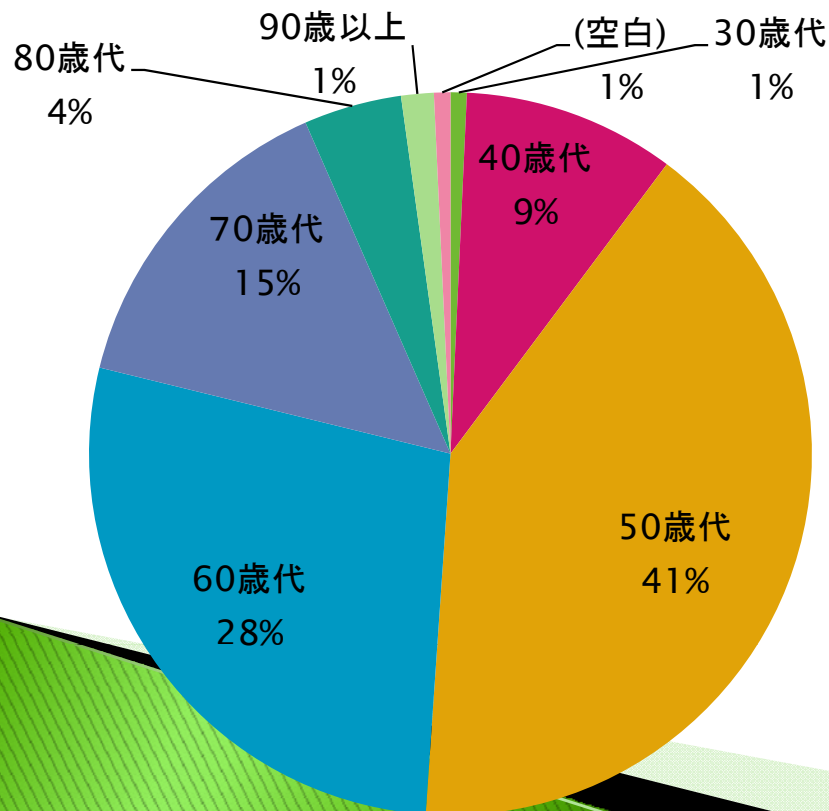
調査結果 (介護家族)

7 家族調査結果

(1) 回収率

配布数	回収数	回収率
200	137	68.5%

(2) 介護者の年代別



(3) 介護者の性別

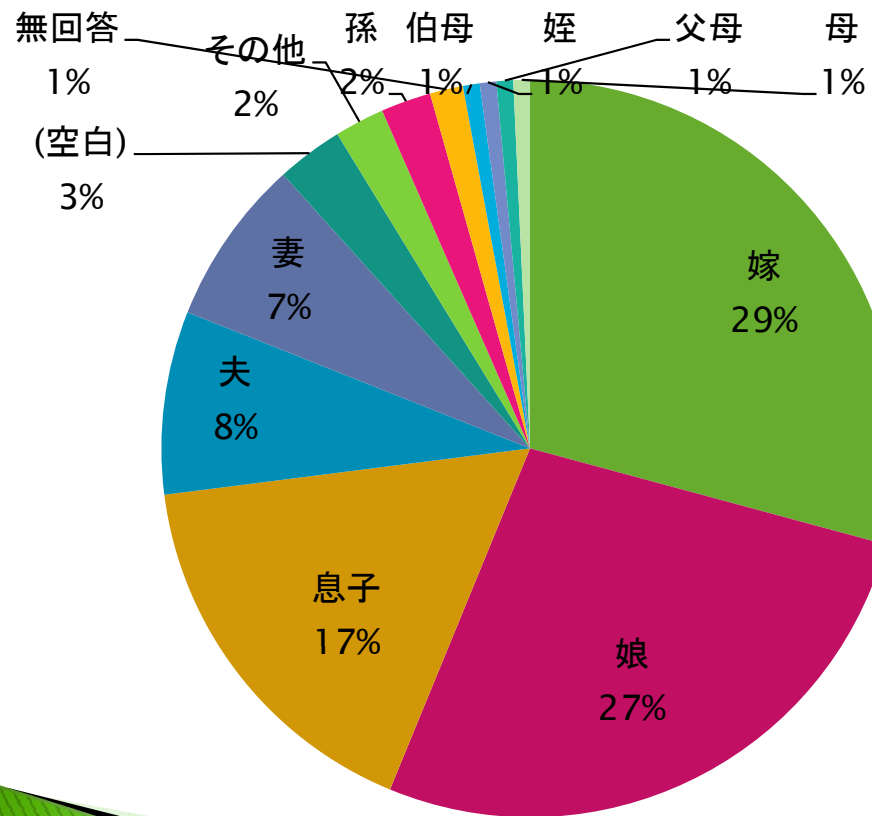
男	女
34	103

件数

30歳代	1
40歳代	13
50歳代	56
60歳代	38
70歳代	20
80歳代	6
90歳以上	2
(空白)	1
総計	137

調査結果 (介護家族)

(4) 本人との関係



(5) 介護者職業の有無

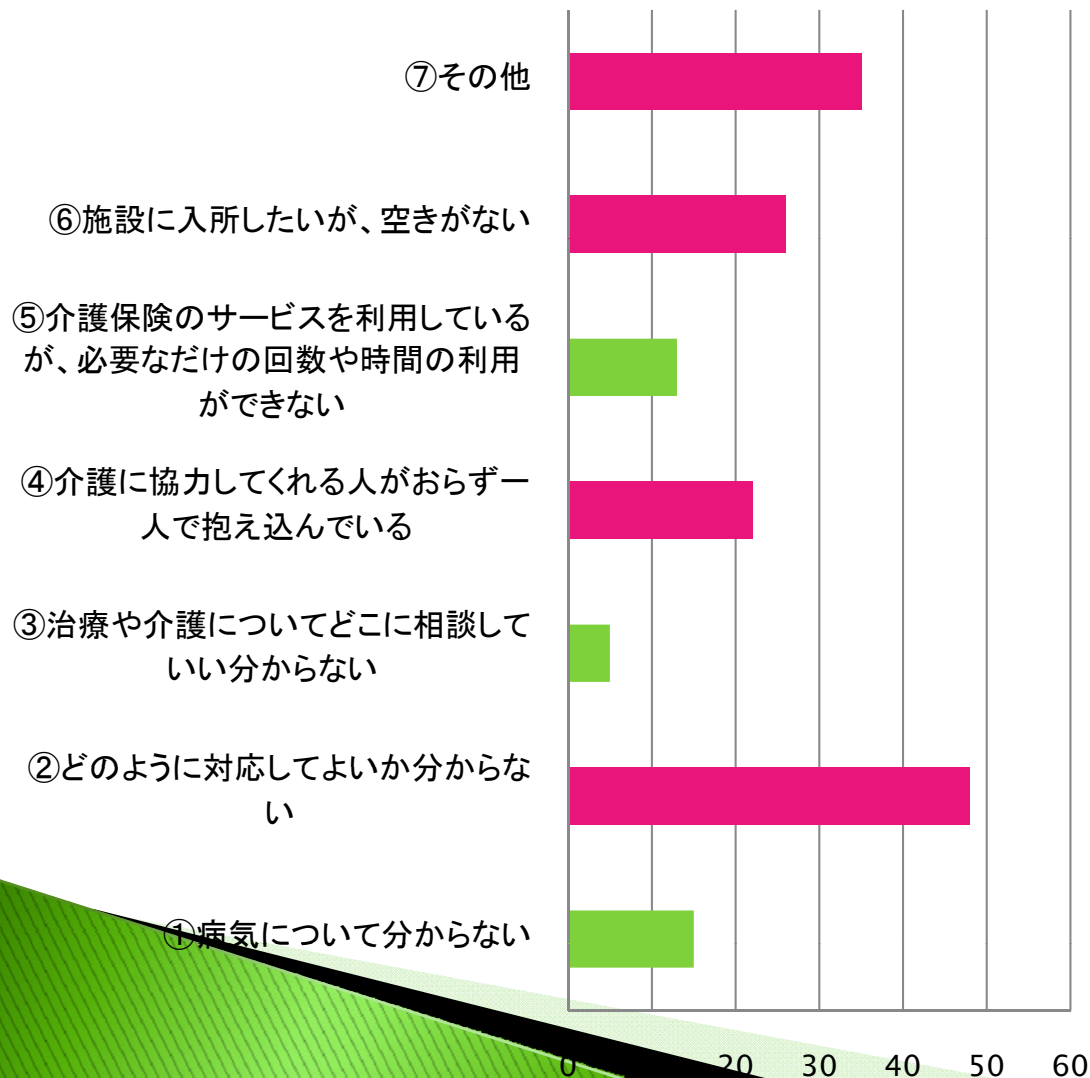
無	有	無回答	合計
71	61	5	137

調査結果 (介護家族)

困ること

複数回答

N=137



○その他自由記載

- ・認知症だと病気と分かっているのに、つい言葉がきつくなり、その後自己嫌悪に陥る。
- ・いつまで続くのかと思う。
- ・家族が介護に協力してくれない。
- ・入所させたいが年金ではどこも足りない。
- ・本人が本当に出来ないのか、うそをついているのか分からない。
- ・毎日の変化に対応することが困難になっています。
- ・仕事をしているので、家にいる時世話をするのが疲れる。
- ・医療行為を毎回しなければならず、家を空けることができないため、どこにも出掛けられない。
- ・緊急時(葬儀等)の預かりが可能な施設がまだまだ少ない。本人の気質等を理解して対応してくれるところが望ましい。
- ・医療に関して、体調不良でも往診してくれず、タクシーで連れて行った。
- ・毎日の生活にムラがあり、気分の変動が激しく、その都度の対応が難しい。

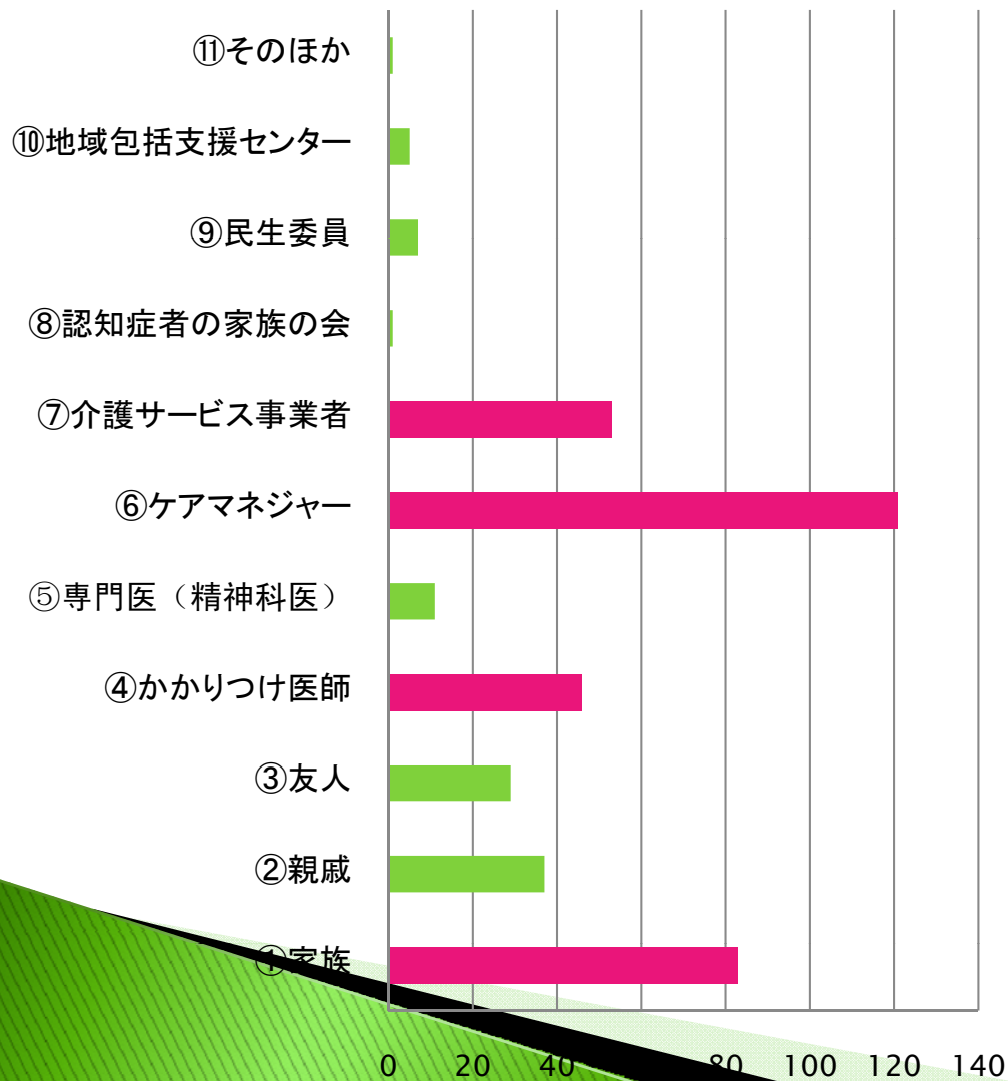
等

調査結果 (介護家族)

相談できる人

複数回答

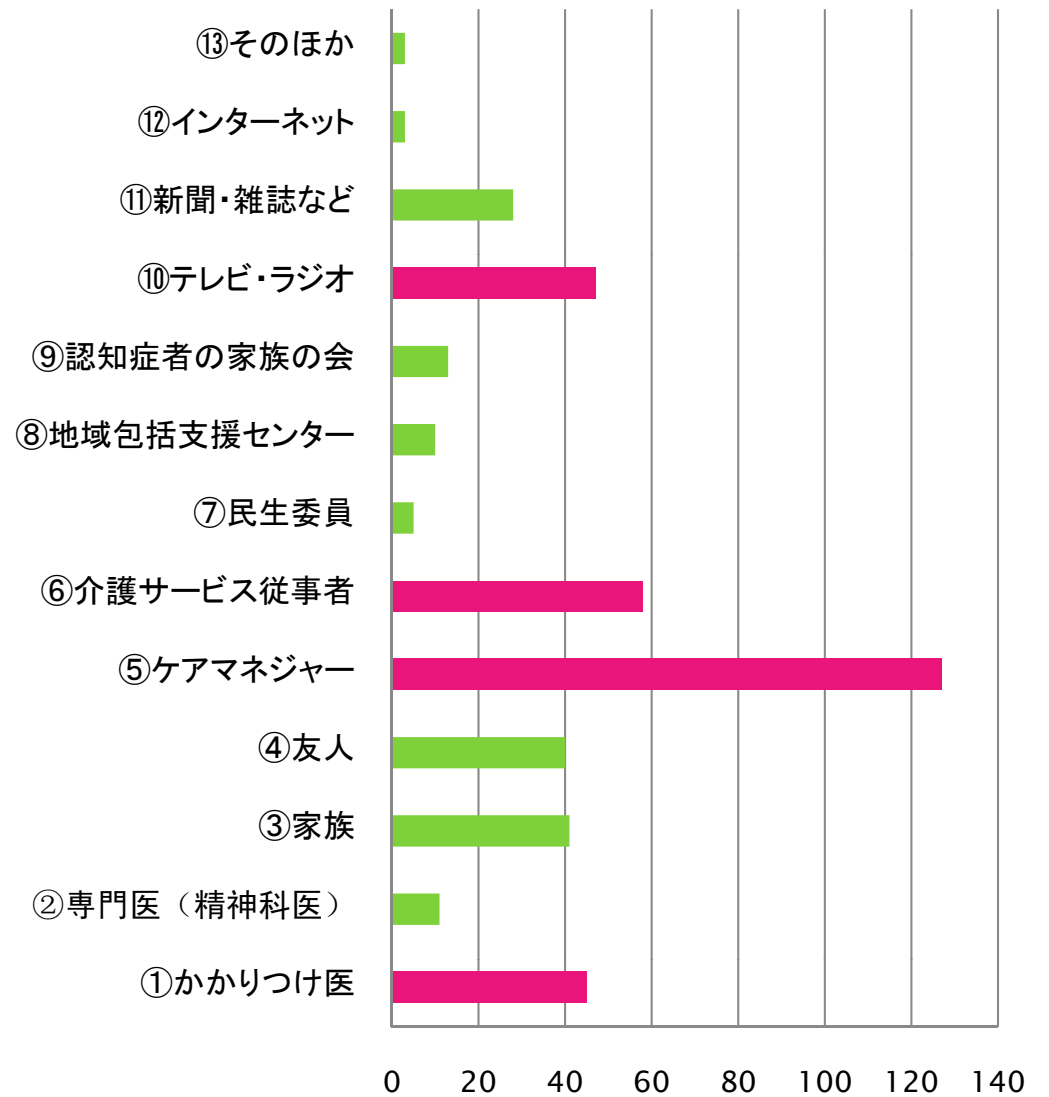
N=137



介護情報

複数回答

N=137



調査結果 (介護家族)

必要だと思うサービス

複数回答

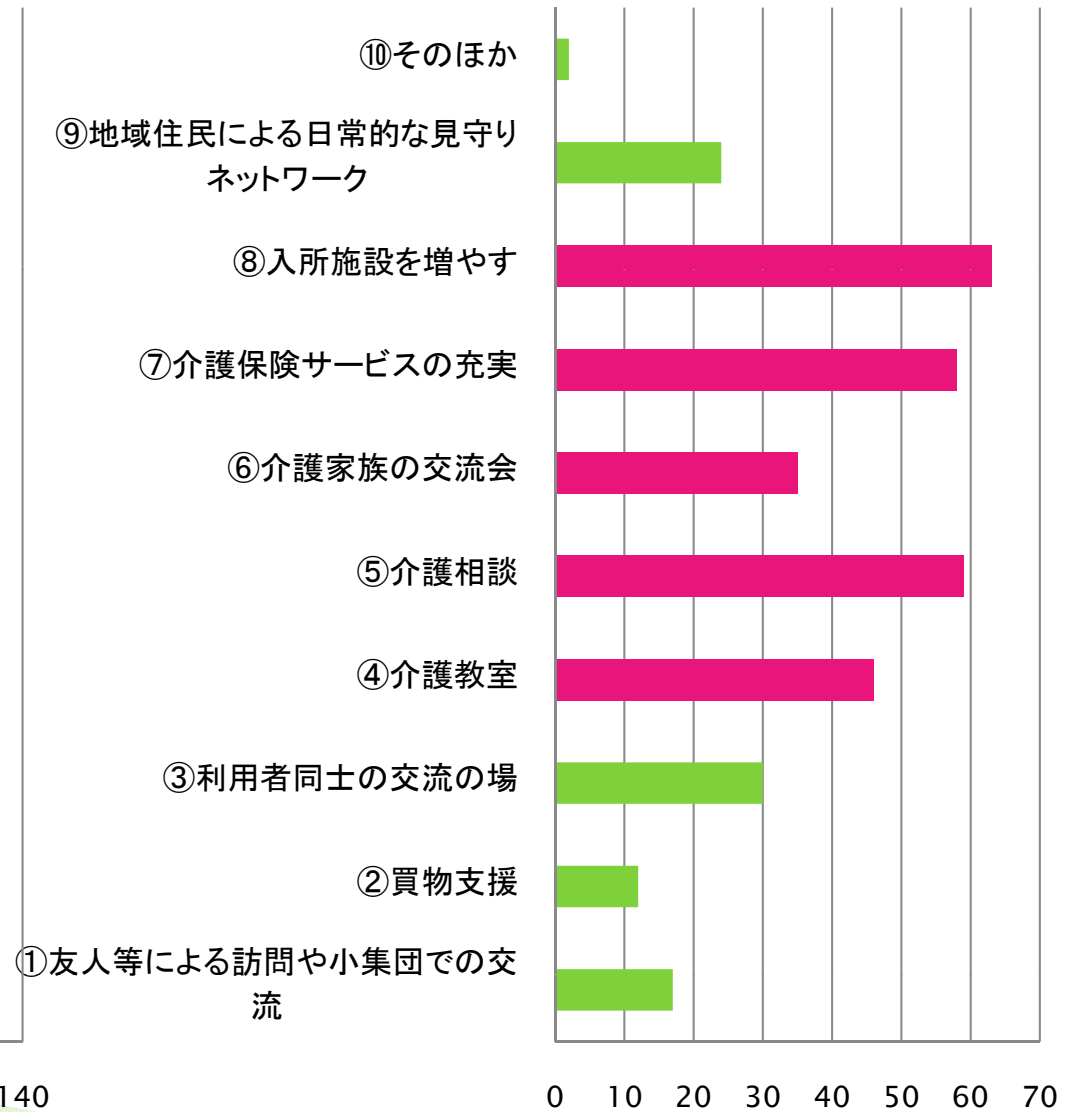
N=137



今後充実すべき社会資源

複数回答

N=137



介護家族調査まとめ

○介護家族は、日々状態が変化する本人に対してどのように対応していいか悩みながら、ときには自分を責めながら介護している。

○介護していく上で、ケアマネジャーや介護サービス事業所、かかりつけ医からの情報は大変重要であり、また、家族の理解や協力は必要不可欠である。

○通所サービス、ショートサービスなどは、在宅サービスを継続していくためには、必要なサービスである。

○介護していく上で今後、充実すべき社会資源については、入所施設を増やすこと、介護保険サービスの充実。
そして身近な場所で、介護者が気軽に交流できる介護相談や介護教室、家族の交流などの場。

今後

- ◇本人が孤立することなく、地域で本人らしく暮らし続けることができるように
- ◇家族が孤立することなく、地域で暮らすことができるように
- ・住民相互の交流が行われている地域社会で、地域が地域を支える仕組みをつくる。
- ・地域の中で、地域住民、関係者の方、行政等で、認知症の方と介護家族を支援するネットワークをつくる。

ご静聴ありがとうございました。

